



第6回 Next Package2023

～人と技術の交流が未来を包む～を振り返って

第6回 Next Package 実行委員長
TOPPANホールディングス株式会社 大日方 野枝

1. 第6回 Next Package2023 の開催にあたって

2023年11月9日に第6回Next Package2023～人と技術の交流が未来を包む～を、秋葉原・UDXカンファレンスギャラリーにて開催致しました。出展企業28社（食品会社10社、容器包装関連18社）、来場者337名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。大変ありがとうございました。

Next Package 展は食品会社と容器包装関連企業を一同に介し、双方の交流を目指した当協会独自の展示会として、2018年より開始しました。第3回、第4回はコロナ禍のためWeb展示会となりましたが、昨年より対面形式に戻し、出展企業、来場者の皆様が直接交流できる場として活用いただけるように致しました。今年度は包装関連の研究室を有する大学（日本女子大学、東京農工大学、お茶の水女子大学）にも声掛けし、学生の皆様にも来場いただきました。次世代の包装分野を担う学生さんにとっても学びの場となりました。

2. 展示会の準備

2023年5月に実行委員6名と事務局2名でNext Package 展示会委員会を発足し、準備をスタートしました。開催概要は2022年度を踏襲することとし、会場予約、出展企業様募集、一般参加者募集を経て当日を迎えました。当日は、混雑を分散するため入場を3部制とし、また、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受けてささやかながら出展企業様同士の懇親の場を設けました。

3. 開催の様子

出展企業の皆様には9時に集合いただき、一般来場者入場までの1時間で慌ただしく、資料、サンプルを展示いただきました。昨年に続いて出展いただいた企業も多く、比較的手慣れた様子で準備が進みました。10時前には来場者の入場待ちの列ができたため、10時少し前に三上実行委員の開会挨拶でスタートしました。各ブースでは来場者と出展社で熱心に懇談する様子が見られ、3部制としたものの途中でかなりの混雑もありました。



以下、出展企業 28 社の展示内容を簡単に記します。

◆食品会社

味の素 AGF (株)

SDGs に対応した容器包装開発の取組として、詰め替え容器の採用、植物性プラスチックの使用、容器包装重量の削減による CO₂ 排出量を削減した取組事例の紹介。

カゴメ (株)

容器開発における環境対応として、紙素材やバイオマスプラスチック使用、リサイクル材使用、薄肉化によるプラスチック使用量低減の取組、及び価値向上として段ボールの開封性改善による店頭作業効率化の改善事例を紹介。

キッコーマン (株)

主な事業内容と容器開発コンセプト、海外事業展開などの紹介。鮮度保持容器の環境負荷低減事例、ステークホルダーの軽量化、シニア層にも使いやすい容器開発事例の紹介。

キューピー (株)

国内調味料で初めて 100% 再生 PET 樹脂ボトルを採用したキューピーテイステイドレッシングと機能性表示食品の紹介。その他、移し替え不要な電子レンジ加熱包材を紹介。

日清オイリオグループ (株)

再生 PET の安全性に関する 4 社 (Mizkan、キッコーマン、キューピー、日清オイリオ) 共同研究論文の紹介。再生 PET ボトルは、厚生労働省の指針を十分に満足しており、液状調味料や食用油の容器として問題なく使用できる結果であった。

(掲載論文: K. Kondo, 日本食品化学学会誌、Vol. 29(1), 19-27(2022))

ハウス食品グループ本社 (株)

ハウス食品の包装へのこだわりと題し、自社製品の包装開発事例を紹介。キャップに滑りにくいエラストマーを使用した二色成形キャップや、植物由来材料を使用した「バーモントカレー」大箱タイプのトレイ採用事例などを紹介。

森永製菓 (株)

森永製菓 130 年の歴史を辿り、キャラメルとキャンディ、チョコレートとココア、ビスケットとスナック、食品と冷菓について進化の歴史を紹介。自社製品の包装の工夫についてクイズ形式で紹介。

雪印メグミルク (株)

人にやさしいパッケージとして、6P チーズの紙箱について開けやすく改良した事例、環境にやさしいパッケージとして、ストローレス牛乳パックの学校給食導入事例を紹介。



理研ビタミン（株）

理研ビタミン独自の「eco マーク」を導入し、外袋を紙パッケージに変更して紙使用比率を高めた事例、また内容量は変えずにパッケージサイズをコンパクト化しプラスチック使用量を削減した事例を紹介。

（株）ロッテ

独自の環境配慮マーク「スマイルエコマーク」を制定し、森林認証紙の使用、再生プラスチックの使用、薄肉化によるプラスチック使用量低減、蓋材軽量化による輸送効率改善などの、環境配慮包材への取組事例を紹介。

◆容器包装関連企業

押尾産業（株）

袋内に穴の開いた特殊フィルムを装着し、適量ずつ振り出せる「ふりふりパック」の紹介、及び乳等省令2群対応のスパウトパックやレトルト殺菌対応のスパウトパック、ハイバリアモノマテリアルスパウトの紹介。

共同印刷（株）

食品向け酸素吸収フィルム「オキシキャッチ®BF」、食品パッケージ内のおおいを吸収する「におい吸収フィルム」の紹介。前者は脱酸素剤なしで酸素吸収機能を付与、後者は内容物の消臭効果を確認。

興人フィルム&ケミカルズ（株）

バイオマスプラスチックを配合し CO₂ 排出量を削減した「コージンバイオポリセツト」、耐ピンホール性や耐寒性を有し重量包装に耐えうる強靱性を有する二軸延伸 PBT フィルム「ボブレット」の紹介。

サエスゲッターズ S.p.A

水系の酸素バリアコーティングを用いた透明バリアフィルム「COATHINK」や堆肥化可能なバリアフィルム製品や、モノマテリアル化、リサイクル性に優れたバリアフィルム製品の事例紹介。

（株）サンエー化研

完全密封電子レンジ調理パウチ「レンジ Do!®」の紹介（平置タイプとスタンディングタイプ）と、バイオマス PE タイプ、紙構成タイプ、耐熱タイプ、酸素吸収タイプ、遮光タイプによるサステナブルへの取組紹介。

シグマ紙業（株）

プラスチック使用量を極限まで減らした薄型軽量紙包装「オルカミパック」の紹介。紙 100% 使用・薄紙使用のため省資源化、かつヒートシール機能・スポットヒートシール機能付与が可能。



四国化工機（株）

“環境調和型パッケージのご提案”と題し、紙、リサイクル素材、バイオマス素材、リサイクル素材、生分解素材の紹介とこれらの素材を用いた環境対応ソリューションの提案。

大日精化工業（株）

油性グラビアインキと同等の色相再現が可能な、包装用水性フレキソインキ「ハイドリック FC シリーズ」、原料中に CO₂ を含有するポリウレタン樹脂を使用し約 10% がバイオマス材料で構成されている「HPU 裏刷りラミネート用インキ」（開発品）の紹介。

（株）武田産業

アルミレスの遮光シーラントである、白黒ポリオレフィンフィルム「WBW」、空冷上向きインフレーションで作る、レトルト対応の高強度・低臭フィルム「ブローアップポリプロピレンフィルム「BUPP」の紹介。

東洋アルミニウム（株）

“東洋アルミニウムはアルミだけじゃない”と題し、アルミなのに白く見える「白いアルミ箔」、微香性天然オイル「コバイバ油」を用いた防虫・忌避材料、肉、魚、ワインを鮮度保持する「ハイドロフレッシュ®」フィルムの紹介。

東洋インキ（株）

環境目標を達成するためのパッケージ提案例として、バイオマス、水性・無溶剤化、紙化、表刷り化、リサイクル事例についてプラスチック量や CO₂ 量の試算事例を紹介。その他、パッケージのモノマテリアル事例や紙化転換による課題とその解決事例を紹介。

TOPPAN（株）

持続可能な社会の実現に貢献するパッケージ「Smart Packaging」と題し、無溶剤パッケージ、GL BARRIER、紙製パッケージを紹介し、実製品への展開事例とその機能、CO₂ 排出量低減事例を紹介。

日本製紙（株）

紙だけでパッケージができるヒートシール紙”「ラミナ®」、紙なのに酸素・香りを通さない紙製バリア素材「シールドプラス」、水に強い耐水紙「STW」の紹介。

（株）フクダ

包装容器エアリークテスト装置の紹介。ピロー包装の漏れ試験を完全自動化し、全数検査を対象とした MSQ-2000 シリーズ、抜き取り検査用の MSP-1010 の紹介。

藤森工業（株）

内容物の液切れがピタッと止まる「逆止弁付きヒンジスパウトパウチ」、空気の逆流を防止する特殊タップとバリア素材を組み合わせ、使い切るまで鮮度をキープできる「タップパウチ」の紹介。



三笠産業（株）

パッキンをセットできるプルオープンキャップ PO フリカケヒンジ cap、流量を自在に調節できるワンアクションノズルキャップ、液切れに優れた Re-Hcap 細穴の紹介。

三井化学（株）

プラスチックフィルムのマテリアルリサイクルの取組として、技術開発の段階的な取組 STEP の提示、及び取組中の実証試験の事例を紹介。

（株）悠心

粉砕含浸による高品位シールを達成した充填機「GANSHIN NEO」、ヒートシール状態をリアルタイムでモニター表示できる「充填支援システム FSS」、横ピロー型製袋方式により落下高さを低減した低床型包装機「A one」の紹介。

各社、説明資料やサンプルを分かりやすく展示いただき、来場者は実際に手に取り出展社へ質問しつつ、活発に意見交換する様子が見られました。また、会場規模が小さいこともあり、出展企業同士の交流も見られました。17時前に実行委員会の桑垣顧問より閉会の挨拶を行い、17時半まで簡単な懇親会を行いました。

出展企業の皆様からは、対面開催により情報収集がしやすかった、技術系、開発系の来場者が多く専門的な議論ができた、開発品に対するヒアリングや製品の販促の場として活用した、若手社員の経験の場として活用した、同業他社と交流できてよかった、などの声を頂きました。また、出展費用が安価で開催期間が1日だけなので出展しやすい、交流の場があることが貴重であるとの声も頂きました。一方、Next Package 展の知名度が低くより幅広い来場者を集めることが課題である、継続していくとマンネリ化するのでは、とのご意見も頂きました。





4. おわりに

第6回 Next Package2023 は大きなトラブルなく終了し、とくに出展企業の皆様には準備、当日の長時間に渡るご説明に感謝申し上げます。引き続き Next Package 展と食品包装協会へのご協力をよろしくお願い致します。

<第6回 Next Package 展示会委員会>

実行委員長

大日方 野枝 (TOPPANホールディングス(株))

実行委員

及川 英之 (味の素 AGF(株))

春名 孝浩 ((株)吉野工業所)

三上 寛信 (雪印メグミルク(株))

和手 憲幸 (キューピー(株))

顧問

桑垣 傳美 (キッコーマンビジネスサービス(株))

事務局

石井 勝巳、藤田 尚子 ((一社) 日本食品包装協会)